

# 進路 神の川

第2号

発行 令和2年5月14日(木)  
鹿児島県日置市伊集院町郡1984  
鹿児島県立伊集院高等学校  
進路指導部  
☎ 099-272-6015(直通)

## 「点」はつながる

「どう生きるか」と「どのように生きるか」が、ぴったり合う人はそんなに多くないかもしれません。私の場合、「自然な生活をしたい」と思いながら、高校に入りたてのころは、テレビで見た南極特集に感化され、南極に行くために地球物理学科に進もうと考えていました。その後、高校3年になり、今度は憲法を勉強したいと思い立ち、法学部を受験しました。自分としては、当然の選択でしたが、回り道をしている感はあります。大学では、憲法を主に勉強しましたが、その中でも「環境権」に熱心に取り組みました。また、「刑法」にも興味をもちました。教員になって、一番面白く熱心に取り組んだのは「倫理」の授業でした。

振り返ってみると、中学校の時に、「憲法」はすごいなと思って熱心に読んだことがありました。「環境権」は、南極の自然環境とつながっているし、「倫理」は、「刑法」の哲学的な部分とつながっているのです。その都度自分としては当然のように選択したのですが、振り返ると何かとつながっています。

スティーブ・ジョブズは、「将来をあらかじめ見据えて、点と点をつなぎあわせることなどできません。できるのは、後からつなぎ合わせることだけです。だから、我々はいまやつていることがいずれ人生のどこかでつながって実を結ぶだろうと信じるしかない。」と言っています。私の場合も、その時の選択について、振り返ると「点」がつながっています。

校長 福留 和宏

とはいえ、この「点」は私がもつ無数の「点」のうち、今振り返って結ぶことができた「点」です。まだ結べていない「点」がいくらでもあるのです。将来の道筋ははっきりしていないかもしれません、私たちは前を向きながら歩んでいきます。前を向き歩みながら、時たま振り返るときに「点」をつなぎ合わせることができます。自分の生き方にはいろいろな局面があります。ここでは私の仕事にからめて紹介しましたが、人生の局面は仕事だけではありません。違う局面で、振り返るといろいろなそれに応じた点がつながっていることがわかるのでしょうか。

伊集院高校の生徒の皆さんは、中学校から高校に入学する際に、普通科を選択しました。これからも、「部活動に入らうか」「どの部に入ろうか」「文系・理系どっちにしようか」「進路をどうしようか」「学部は何がいいか」などいろいろな選択の機会があります。それらは、「どのように生きるか」を選択するということです。その際に、「これはできないから」「これは不得意だから」という理由より先に、「これが得意だから」「これが好きだから」「これに興味があるから」という理由から入ってほしいと思います。そして、前を向いて歩みながら振り返ったときに、「点」がつながり、これらの選択が「どう生きるか」という大きなテーマへの回答になるのではないかでしょうか。



### 最近3ヶ年の合格状況

合格数は、( )内の過年度生別明分を含む 令和2年3月30日現在

国公立大学	H30年合格数	H31年合格数	R2年合格数	私立大学	H30年合格数	H31年合格数	R2年合格数	短大・大学校専門学校・就職	H30年合格数	H31年合格数	R2年合格数
国立大学	北海道教育大			国際基督教大	1			鹿児島県立	17	17(1)	15(3)
	宇都宮大			桜美林大	1			大分県立	1		1
	東京学芸大			大東文化大	1		1	国公立短大合計	18(0)	17(1)	16(3)
	電気通信大			日本体育大	1		1	近畿大短期部			1
	東京芸術大			日本女子体育大	1(1)	1		西九州地区			
	静岡大			帝京農業大	1(1)		1	福岡工業大			
	名古屋大			専修大学	1(1)		1	香蘭女子大		1	1
	京都大			武藏大				福岡女学院	1		
	神島大			国士館大				九州龍谷大			
	島岡大			東海大	1			福岡医療大			
	広島大	2	1	東洋大	1(1)			佐賀女子大			
	山口大	1		龍谷大			1(1)	鹿児島女子大	15	7	8
	愛媛大		1	京都産業大			1(1)	鹿児島純心女子大	14	10	11
	九州大			同志社女子大	1(1)	2(1)	2(1)	第一幼稚教育		1	
	九州工業大	1		近畿大	1(1)	2(1)	2(1)	その他			
	福岡教育大	2	1	関西福祉科大	1		1	私立短大合計	31(0)	19(0)	21(0)
	佐賀大	1	1	京都女子大	1			海上保安大学校		1(1)	
	長崎大	1	1	大阪産業大				水産大学校		1	
	熊本大	1	2	大坂芸術大	1			九州職能	1		
	大分大	2		広島国際大	1			その他の他		1(1)	
	宮崎大	3	1	西日本大	2			大学校合計	1(0)	0(0)	3(2)
	鹿児島大	19(3)	24(4)	太洋大	6(2)	3(2)	5	短期大学校合計	1(0)	6(0)	3(0)
	琉球大	2	5	日本経済大	1			医療センター附属	6	1	1
	国立大学小計	32(3)	39(4)	日本赤十字国際看護大	1			鹿児島医療技術大	9	8	15
公立大学	都留文科大	1		久留米工大	1			鹿児島福祉大	8	5	5
	福知山公立大			福岡工業大	4	7(2)	3	久木田学園	1		
	高知工科大	1		九州産業大	1			鹿児島歯科学院	1	2	3
	尾道市立大	1		西日本工業大	1			神村学園	4	11	4
	山口東京理科大	1	1	西南学院大	2	1	2	鹿児島中央看護大	3	4	4
	下関市立大			西南女学院大	1			鹿児島看護大	1		1
	北九州市立大	5(1)	1	福岡国際大	6(2)	3(2)	5	赤塚学園看護大	6		
	福岡女子大	1	1	日本経済大	1			川内市医師会立看護大	1		
	福岡県立大			日本赤十字国際看護大	1			第一リハビリ	2		
	熊本県立大			久留米大	1			鹿児島医療工学大	1	1	
	長崎県立大			九州産業大	1			その他の他	3	5	1
	宮崎県看護大	1		西日本工業大	1			看護医療系小計	36	47	34
	宮崎公立大	2	1	西日本工業大	1			KCS鹿児島情報大	1	1	4
	名桜大			九州共立大	1			キャリアデザイン大	1		2
	公立大学小計	13(1)	5(0)	西日本工業大	1			今村字園	1		2
	国公立大学合計	45(4)	44(4)	西日本工業大	1			IBS外語学院			
				西日本工業大	1			鹿児島工学院			
				西日本工業大	1			鹿児島県美容大	3	2	
				西日本工業大	1			鹿児島環境情報大	1		
				西日本工業大	1			福岡ビジョナリーアーツ			
				西日本工業大	1			その他の他	4	4	6
				西日本工業大	1			医療系以外小計	10	12	14
				西日本工業大	1			専門学校合計	46	59	48
				西日本工業大	1			地方公務員自衛隊(のべ)	1	2	3
				西日本工業大	1			一般企業自衛隊	2	1	4
				西日本工業大	1			官公署合計	3	5	11

# 合格体験記

進路だより 神の川

## 諦めずに挑戦すること

鹿児島大学教育学部学校教育教員養成課程初等教育コース 戸島 史香

私は伊集院高校での三年間、勉強と部活の両立にとても力を入れました。ときには部活で疲れて家に帰るとすぐにベッドに入ってしまったこともありますが、なんとか勉強と部活どちらも自分なりに精一杯やりきることができました。

そんな高校生活三年間の中で私が一番辛かった時期は部活を引退したときです。部活が大好きだった私は引退してからもなかなか勉強モードに切り替えることができませんでした。周りの友達が塾に行ったりする中で焦りましたが、自分を変えることができずにいました。しかし、このままではダメだと思い、私はとにかく学校で勉強することにしました。授業が終わってからも学校に残り、休日も正月休みもとにかく学校にきました。学校に来るとたくさんの友人が一生懸命勉強していて、その姿を見て私も頑張ろうと何度も思いました。

また、私が行きたい大学は推薦入試も前期試験でも面接の試験があったので、推薦を受けると決めてからは毎日たくさんの先生方に面接の練習をしていただきました。多くの先生方からのご指導のおかげで、本番でもあまり緊張することなく試験を受けることができました。私はセンター試験で思うような点数が取れなかったので、推薦が不合格だったとき前期試験を受けるかギリギリまで悩みました。しかし、両親の「やるだけやってみよう」という言葉に背中を押され挑戦することにしました。今ではあの時諦めなくて良かったという気持ちでいっぱいです。

最後に、高校三年生の一年間は時間が過ぎるのがとても早いです。やらないで後悔することがないように、自分が今できる最善のことを積み重ねていけば自分に自信がつくと思います。最後の最後まで諦めずに頑張って下さい。応援しています。

## 保護者から一言

### 信じる心

片平 直子

(琉球大学教育学部学校教育教員養成課程特別支援教育コース 片平 大貴)

長男の大学受験。我が家にとって何もかも初めてのことばかり。そして振り返ると反省することばかりだ。

三年生になり、少しは高まったかなと感じる緊張感が月日が経つ毎に増していく、家の空気がピリピリしていく。おしゃべり息子の口数はどんどん減り、受験の話は少しも出してくれない。こちらから話題にしても「まだわからない」とか「そうかも」などと把握できない返事ばかりで不安だけが募っていました。「お母さんに出来ることない?」「今はないかも」こんな会話が続いた。

受験直前は予想していた以上に目まぐるしく動かなければならぬ期間だった。受験に関わる手続きのほとんどがインターネットを利用した作業である。紙ベースの物はほとんど無いと言っても過言ではない。その手の物に疎い私は息子のサポートが何一つ出来なかつた気がする。まさに嵐のように過ぎ去った三年生後半。私に何が出来たのだろう。どうすることが息子の手助けになったのだろうか。

進路が決定した生徒達の話に焦り、先が見えず不安だらけで心の中はざわつき泣きたくなる日が続く。きついな。しんどいな。息子に見えない所で思い切り泣く。自分はなんて弱いのだろうと落ち込む。これでいいのかと迷い悩む。いや、悩んでなどいられない。きついのは息子の方だと立ちあがり、顔を上げて進み始める。私自身がまるで受験生だ。息子の心中は一体どんな状態なのだろう。苦しさや苛立ちはどこに追いやっているのだろう。どこかで泣いているのだろうか。

今、合格を手にした息子の笑顔を前にして思う。私が笑顔でいること。元気でいること。朗らかでいること。美味しい食事を作ること。ぐっすり眠れる生活を守ること。「母は強し」我が子の選択を信じ、どんと構えて「あなたなら大丈夫」と伝え続けること。あきらめない気持ち、強い心を自分の笑顔を通して我が子に伝えること。たくさんの大切なことに気付くことが私の受験だったのかもしれない。

私達が弱気になる度「この子なら大丈夫」と、いつも励まし支え続けて下さった先生方への感謝の気持ちちはとても言葉にならない。次の新たな壁にも怯むことなく全力で立ち向かっていくよう、我が子を信じ、自分を信じ、想いを伝え続ける母でありたい。

## 進路実現のために

宮崎大学工学部情報システム工学科 矢野 晃成

僕は受験するにあたりいくつかの事を意識して勉強しました。それをいくつか紹介したいと思います。

まず、授業を中心とした受験勉強を心がけました。具体的に言うと授業内で解けなかった問題や分からぬものはその授業の中や休み時間で早めに理解するようにしていました。あと、模試の復習は自分を分析するのに最適なのでしっかりと復習することが重要です。

次にしっかりと睡眠をとることです。僕自身成績に不安を感じていた頃睡眠時間を削って勉強をしていた時期がありましたが、それを毎日続けていると肝心な授業に集中できなくなり、勉強の中身が薄くなっています。疲れている時や体調が悪い時は無理をせずに睡眠をとった方がいいです。

また、僕は英検の取得にも力を入れました。英語の勉強は英検取得に限らず、新たな大学入学共通テストや多くの大学で文理問わず二次試験で必要になると思います。そのため英語の勉強は必須で、英検の準一級や二級は学校によっては利用できる所があり、有利になる事があります。僕が受験した大学では二級が利用でき、二次試験の英語が満点になりました。英語の学力向上にもつながると思うので英検の取得をお勧めします。

ほとんどの人に得意教科や苦手教科があると思います。僕は勉強時間の多くを苦手教科に費やし、疲れてきたら気晴らしに得意な教科をやることで効率よく集中して勉強ができます。人それぞれ勉強のやり方はあると思いますが、自分に合った勉強法を早めに見つけ、習慣づけるのが良いと思います。

最後に、三年生の一年間はこれまでの二年間とは違い勉強ばかりできつたと思います。成績が伸びない時期もありましたが、努力すれば実感はなくとも確実に前の自分より成長しているはずです。最終的には自分の学力勝負なので個人戦ではあるものの、本番に至るまでは友達や先生と共に頑張る団体戦なので、周りの人と一緒に努力して下さい。きっと良い結果が待っています。応援しています。

## あきらめない気持ち

松尾 詠美子

(鹿児島大学水産学部水産学科水産資源科学領域 松尾 遥奈)

視覚から得られる情報は約8割と言われています。娘は生まれつきの弱視で、左眼はほとんど見えません。しかし、環境に慣れると普通に過ごすことができるので最近では私も、見えていないことを忘れてしまうくらいです。小さい頃は毎日、見える方の目を隠して見えない目で過ごすという、きつい訓練をしてきました。盲学校の先生に「子どもの力は無限大!適応する力があるから大丈夫」と励まし支えてもらいました。見えないから、初めから出来ないと思うのではなく何でもチャレンジしてみよう、させてみよう!の精神を教わりました。娘の負けず嫌いは、こんなことを乗り越えて育ったのだと思います。娘は今まで、見えないことに対して何一つ文句を言ったことはありません。学校の授業でも読むことに時間がかかる、部活でも見えなくて怖い思いをしたりと、思い通りにいかないことがたくさんあったようですが、どうすれば乗り越えられるかをいつも考え、あきらめずに努力をしてきました。

娘は中学生の頃の担任の影響で水産に興味を持ち、中学生の頃から、いくら作りのイベントに参加するなど、将来の夢が明確で、早くから自分の目指すものが決まっていたことが、推薦入試の強みになったと思います。そして、とことんまで調べて情報収集し、自分の考えをしっかりと持っていたことや、ほんかかんか検定に合格したことでも自信の一つになりました。そして何よりも、剣道で鍛えた思い切りのよさや集中力が面接での味方になったのだと思います。私が受験に参加できたことは、毎日の駅までの送迎の短い時間でしたが、娘とたくさん会話をしたこと。娘曰く、ポジティブというか天然な私との会話は、何よりもメンタル面での支えになったようです。

今回の「合格」は、娘の努力はもちろんですが、娘の力だけで掴んだものではなく、日頃からたくさんの先生方が授業ごとに拡大プリントを毎回用意して下さるなど、細やかなサポートがあつたことだと思います。

3年間温かく励まし、ご指導して下さった先生方と仲間に、この大好きな伊集院高校で出会えたことに感謝し自分の夢に向かって突き進んでほしいと願います。ありがとうございました。